

C O P 1 0 開会における各国の演説の概要

アルゼンチンのゴンザレス・ガルシア厚生環境大臣

気候変動問題の取り組みへの強い決意を述べるとともに、京都議定書の発効を引きつつ、さらに挑戦していく必要があるとの挨拶を行った。また、緩和策をより強化していくと同時に、今後は適応策についてもより一層充実していくことが重要であることを強調した。

ウォーラ・ハンター条約事務局長

今回は条約 10 周年と京都議定書発効という 2 つのマイルストーンがある記念すべき会合であり、国際的政治的なモメンタムを再活性化することを期待する、京都議定書は具体的第一歩であるとした上で、条約の究極的目標に向け引き続き努力が必要である、適応策も重要であり具体的な取り組みを進めていく必要がある、共通だが差異のある責任という考えの下ですべての国が同じ方向を向いて努力することが重要、との挨拶を行った。

G77 及び中国（代表：カタール）

京都議定書が発効し、今後より効果的に取り組みを進めていく必要があること、適応策と対応策は途上国で今後とも重要であり、資金源の確保が重要であることを述べ、また、先進国が議定書 3 条 9 項（2005 年より第二約束期間の約束について交渉開始）の議論を行うに際しては、条約 4 条 2 項（a）、（b）（温室効果ガスの排出抑制に関する先進国のコミットメント）の実施状況の適切性を評価していくことが、将来のコミットメントを議論する前提となる旨発言した。

E U (代表：オランダ)

条約の枠組みの下でさらなる努力のあり方を探るべき、温度の上昇幅は産業革命以前と比較して2℃を超えないようにすべきと強調したほか、適応策も重要でありすべての締約国と協力していきたい旨発言した。

米国

京都議定書とは違う道を選んだが、他方で条約にはコミットしており、気候変動には積極的に取り組んでいる旨発言し、具体的な3つの柱として、温室効果ガス排出増加強度の抑制、研究と技術への投資、メタンパートナーシップなど2国間や多国間の協力を行っていることを強調した。

ロシア

多くの国から京都議定書批准を歓迎する旨発言があったことに謝意を表しつつ、批准は様々な困難を乗り越える必要があったことを理解して欲しい旨発言があった。